

せんだいメディアテーク 6F ギャラリー a  
2024.5.24 (金) - 28 (火)

つくりびと  
総合芸術展

実施報告書

# 1 開催レポート

## 『つくりびと』の歴史

2012年に日本の美術誌史上初のアートフリーマガジンとして誕生した『つくりびと』。全国の創作者の作品を美術評論家・文筆家として活躍する面谷哲郎氏の解説とともに掲載し、全国の美術館や美術大学を中心に約250カ所に配本して参りました。号数を重ねるごとに「掲載作品を直に鑑賞できないか」との要望が数多く寄せられるようになり、2019年掲載作家1,000名突破を機に初めての『つくりびと総合芸術展』開催に至りました。創刊から12年の現在もあらゆる創作ジャンルの作品を紹介する『つくりびと』は、新しい芸術表現の可能性を世の中に広め続けています。

## “平成30年間を代表する建築”に選ばれたせんだいメディアテーク

せんだいメディアテークは全面ガラス張りの開放的な空間であり、建物内のチューブと言われる骨組みを貫通する自然光と人工光の昼夜の対比も鮮やか、近未来的な建築様式の公共施設です。現代美術を中心に、国内外のさまざまな展覧会が開催されています。また、約50万冊の蔵書を誇る仙台市民図書館もあり、映画やトークイベントなど映像コンテンツも楽しめる市民の憩いの場でもあります。その会場に負けずとも劣らない斬新な作品や心温まる作品がギャラリーでお披露目となりました。

## 併設・子ども作品展

「芸術文化の未来を創造する企業」を掲げる国民みらい出版では、毎回開催地の会場近隣の小学生や幼稚園の子どもたちの絵を招待展示しており、今回は仙台市立上杉山通小学校と仙台市立木町通小学校の子どもたちが参加してくれました。子どもたちの元気いっぱいの絵が会場にさらなるエネルギーを与え、多くの来場者を笑顔にしてくれました。

## 特別展示・能登半島をアートで応援しよう

今年元旦に起きた「令和6年能登半島地震」の被災地に向けてアートでエールを送ろうと、一般財団法人言語交流研究所ヒップファミリークラブの子どもたちが絵を描いてくれました。同じく有志の『つくりびと』たちの作品ポストカードを募金箱の横に設置、募金してくれた来場者に好きなポストカードをプレゼントしました。どのポストカードにしようかと選ぶ来場者の真剣なまなざしがとても印象的でした。

## つくりびとたちの創作世界が広がる会場

5月24日～28日の5日間にわたり開催された『つくりびと総合芸術展』は最後2日間雨模様の時間帯もありましたが、会期を通してさまざまな来場者に恵まれました。また、評論家の正岡明先生も来場し、出展者の方々と作品や制作過程について精力的に対話を重ね、予想以上の成果をあげられたようです。会場の階下では同日程で『第28回宮城平和美術展』が開催されており、出展者・来場者ともに両フロアを行き来し、お互いの作品に刺激を受け、芸術交流をあたためる場にもなりました。出展者とその関係者はもちろんのこと、招待展示に出展してくれた子どもたちとそのご家族、地元の方など数多くの来場者で活気に満ちた展覧会となり、主催者としてその責務を全うできたことに胸をなでおろしております。それを支えてくださった出展者の皆さま、関係者の皆さまには改めて御礼申し上げます。

## 2 開催概要

### つくりびと総合芸術展 2024

会 期	2024年5月24日(金)～28日(火)
開催時間	10:00～18:00
会 場	せんだいメディアテーク 6F ギャラリー a
展 示	下記参照
入 場 料	無料
主 催	つくりびと総合芸術展実行委員会
企画運営	株式会社国民みらい出版
後 援	宮城県、仙台市教育委員会、仙台市、河北新報社、仙台放送【順不同】
協 力	一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブ
広報活動	マスコミ各社にプレスリリースを配布
募 金	114,052円 (日本赤十字社の「令和6年能登半島地震災害義援金」に全額寄付)



## 3 展示構成

### 絵画および平面作品

油彩画、アクリル画、水彩画、パステル画、日本画、水墨画、ヒーリングアート、色鉛筆画、ペン画、ミクストメディア、ボタニカルアート、デジタルイラスト絵、写真、書道、墨アート、墨彩書画、俳画、絵手紙、筆文字

### 立体および工芸作品

モダン・うるし・アート、染色、パッチワーク、布絵、津軽こぎん刺し、手編み、羊毛フェルト、江戸型彫、一閑張、人形、水引ジュエリー、和紙ちぎり絵、ペーパークラフト、レジンアート、押し花、フラワーデザイン、いけばな、ジオラマ

### 文学作品

俳句、短歌、川柳 - 玉虫塗筆入れ(宮城県の伝統工芸品)、  
現代詩、哲学、ノンフィクション文学 - オリジナルポスターと著作物

### ポスターパネル展示

つくりびと表紙デザインポスター、アートポスター、詩歌ポスター

### ポストカード配布

令和6年能登半島地震被災者支援の有志アーティスト作品ポストカード

### ●その他の展示物

- ①企画展示・つくりびとの歴史(歴代「つくりびと」の代表的な表紙とコラムをパネル展示)
- ②仙台市立上杉山通小学校と同木町通小学校の子どもたちの絵
- ③一般財団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブの子どもたちによる能登半島へエールを送る絵

## 4 来場者アンケート一部紹介

「自由な発想、色のバランスがいい」

「気持ちが穏やかになる作品が多く、自身の制作活動の参考になりました」

「先のことより、今のことを大事にしながら改めて日々の生活を過ごそうと思いました」

「色づかいが素晴らしい。技術も素晴らしく、創作者の作品に対する思いがすぐ伝わってくる」

「子どもたちの交流の様子をすてきに表現していた。地元石川への応援メッセージがたくさんあり、とても元気づけられた」

「漆で色がきれいにいせるとは知らなかったので勉強になりました」

「私の好きな作品が数多くあった。色づかいや押し花の構成、独創性など感心してしまいました」

「角度を変えて眺めるとまた違って見えるのが魅力的と感じました」

「伸びのび、凜とした葉がいけられていて、配置などから家族のようにあたたかい一体感も感じられました」

「さまざまな生地や部品をつかい、壊された街が表現されており、“ひまわり”というタイトルからも考えさせられた作品です」

「タイトルのつけ方がすてきな感性だと思いました」

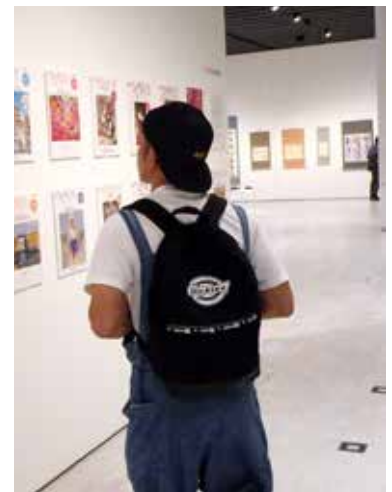
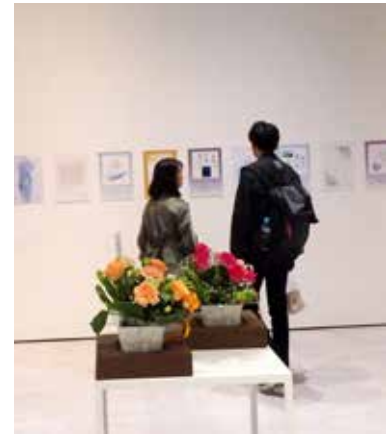
「何ともいえない空気感と思いの深さを感じる作品が多かったように感じます」

「描きたい気持ちがあふれ出ている作品が心に残りました」

「力強さを作品の字や文章から感じた。エネルギーを少し分けてもらったような気がします」

「絵画のようでもあり、写真のようでもあり、どちらもいえない曖昧な状態が不思議で美しいと感じました」

「子どもたちの絵がエネルギッシュで元気をもらいました」



## 5 総括 正岡明

仙台は昔から「杜の都」と呼ばれるだけあって、街中が緑にあふれ、特に定禅寺通りの4列の大木のケヤキ並木は圧巻だ。その並木に沿った一角に、美術や映像文化の拠点となるメディアテークという瀟洒な建物があり、その6階が今回の『つくりびと総合芸術展 2024』の会場となった。そのホワイエの大きなガラス窓いっぱい、ケヤキの新葉が薫風にそよいでいた。

会場は多数の出展者の作品群で埋められたが、近隣の小学校の生徒さんからもほほ笑ましい絵画作品がたくさん寄せられた。

初日から多くの出展者の方々が来場され、目まぐるしい日々ではあったが、今回は一人ひとり作品の前で制作の意図や手法、作品への思い、作者の人生観の一端にまで触れられたのは、評論に携わる者として実に貴重な至福の時間であった。

年々展覧会で感じることは、アートや趣味のジャンルの裾野が広がっているという点だ。絵画部門でも新たな試みも増え、表現の手段の広がり、アートの可能性に期待が膨らむ思いがした。文芸もしかりである。制作過程で予期せぬ障害に遭遇したり、やむを得ず中断することがあっても、それが逆にバネになって、その後の作品に深みをもたらすということもあると知り、アートは人生そのものを物語っているようにも思えた。

今回は多数の出展者の皆さまに加えて場所柄もあり一般の来場者も多く、また先生や親御さんと来場した生徒さんたちが自分の作品の前で談笑したり、アットホームな雰囲気にも包まれた意義深い展覧会となった。

### 最後に

最後になりましたが、『つくりびと』は今後もさまざまな分野で創作に携わる方々の作品をいち早く世に紹介していきたいと考えております。ご多忙のなかご来場、ご出展くださいましたすべての方々に深く感謝申し上げますとともに、皆さまの今後のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。







